

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康でたくましく，確かな学力と豊かな人間性を持ち，ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

《合い言葉：元気・やる気・勇氣・思いやり》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 学びしっかり やさしさいっぱい だれもが輝く明保小」を目指し，家庭・地域の信頼と協力のもと，誰もが夢や希望を胸に喜びとやりがいをもって生き生きと生活し，成長できる学校を創る。

- 児童が意欲的に取り組む教育活動を展開し，「知・徳・体」の調和の取れた力強く生き抜く力を養う。
- 教職員が，人権尊重を基盤に，チームの一員としてやりがいを持ち専門性を磨き，教育に邁進することにより，保護者や地域からの信頼を得る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) すべての児童が安心して明るく学校生活が送れるよう，環境を整え，目指す児童像実現に向けて児童の成長に資する取組の充実を図る。
- (2) 「がんばった」「嬉しい」「感動した」等の体験により，自己肯定感・自己有用感や豊かな心を育み将来への夢が描けるよう，教育活動の質を高め，認め励ます教育を推進する。
- (3) 学業指導を基盤に，学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け，思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- (4) 児童の人権を尊重し，教育的ニーズを踏まえた個に応じた指導により，児童・保護者との良好な人間関係を築き信頼される学校づくりを進める。
- (5) 教職員が倫理観と使命感を持ち，資質・能力向上を高めるよう研鑽を積むとともに，校務の重点化・焦点化を推進し，やりがいを持ち，児童と向き合う時間の充実を図る。
- (6) 支えてくれる方々に感謝し，郷土を愛する心を養えるよう，宮の原地域学校園，魅力ある学校づくり地域協議会等との連携により，ふれあい活動等の充実を図る。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

心豊かで輝く子供の育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

【重点課題】

- ★基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（自ら学ぶ児童・生徒の育成）【学力向上部会】
- ★思いやりを高め規範意識の向上を図る。【学校生活適応支援部会】
- ★継続した筋力向上をめざし，健康で安全な生活を営ませる。【健康・体力・食育促進部会】
- ★小中および地域の交流促進を目指し，情報共有化を図る。【交流連携促進部会】
- ★学校事務の効率化・平準化を図り，学校づくりを支援する。【地域学校園事務室部会】

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係所法令や学習指導要領，とちぎ教育ビジョン 2025，第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画・学校教育スタンダード等に則し，本校教育目標の実現に向けて編成する。
- (2) カリキュラム・マネジメントの視点に立ち，思考力・判断力・表現力等と問題解決能力を高めるために，各教科・各領域等の関連を図った教育活動を展開する。
- (3) 創立150年の歴史と伝統を踏まえ，学校・地域・児童の実態を適切に把握し，特色ある教育課程を編成する。
- (4) 学校教育活動全体を通じた組織的なPDCAサイクルの活性化により教育課程の実施状況を評価し，必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。
- (5) 教育活動実施時数は，宇都宮市小中一貫カリキュラムを基準として編成し，1年生は安全上2年生と同様に，予備時数は基礎的・基本的内容の徹底（国・算）を中心に計画的に運用する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>(1) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人のよさを伸ばす教育の実践と誠実な行動により、信頼される教職員集団であり続けるために努力する。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTを効果的に活用するなど、質の高い授業を提供できるよう、校内研修並びにOJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。 地域とともにある学校づくりを具現化するために、PTAや地域人材、大学・団体等の教育資源を積極的に活用した教育の充実により、特色ある学校づくりを推進する。 教職員が健康で働きがいを持ち、質の高い教育が持続できるように、働き方改革を推進し、業務の適正化・効率化を図る。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「宇都宮モデル」の活用により、学習の目標を児童と共有し、課題にじっくり取り組み学び合う活動を保障して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、「考えるための道具箱」（比較する・分類する・つなげる・多面的に見る・理由付ける等）の活用による思考力・判断力等を育成する。 令和2～4年度に実施してきた話し合い活動の充実を継続しながら、自分の考えを書く力を向上させる。 ねらいを明確にした実験・観察・体験・調査・製作・実習等による実感を伴った学びを充実させる。 ○ 「明保小学習スタンダード」に基づいた基本的な学習態度の指導と互いに認め合う児童の育成により、学びに向かう集団を作る。 1人1台端末を学習のねらい達成のために効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図った授業づくりを実施する。 個に応じた指導の充実を図る。（「カスタネット通信」の活用） 朝の学習や家庭学習の充実により基礎・基本の定着を図る。 夢や目標を持ち自己実現に向け努力する態度を育てるために、キャリア教育を推進する。 <p>(3) 児童生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考える道徳科の授業を核として、異年齢児童や高齢者等、様々な人との関わりふれあう体験活動や読書活動を推進して豊かな心を育む。 ○ 「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今年度の重点「毎日めざそう5つ☆」 ☆あいさつ・返事 ☆名札 ☆くつ揃え ☆心が温かくなる言葉かけ ☆話の聞き方</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図る。 ○ 一人一人が大切にされ、いじめゼロの実現と不登校を生まない温かい学級・学年風土を醸成する。（情報共有、教育相談、Q-U調査の活用、SCとの連携） <p>(4) 健康（保健安全・食育）・体力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動量の多い教科体育の充実と各種検定による体力と運動能力の向上を図る。 望ましい食習慣の形成と、日常の保健指導（体温計測、歯磨き、手洗い・うがい）の徹底により、健康を管理する能力を育成する。 自ら仕事を見つけ協力して働く清掃指導や学校に役立つ活動を通して、自己有用感と公共心を育成する。 安全教育・安全指導を推進し、自他の命を守る判断力と行動力を身に付けさせる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～B4は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡大 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 (矢印は前年比5ポイント以上の増減)						
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①児童が発言したり、考えを友達と話し合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。</p> <p>②課題解決のために必要な情報を収集したり、選択したりする活動を丁寧に支援する。</p> <p>③<u>単元全体を見通して、問題解決型の授業を積極的に取り入れ、児童が主体的に取り組めるようにする。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">児童</td> <td style="text-align: center;">92.9%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">教職員</td> <td style="text-align: center;">96.9%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">87.9%</td> </tr> </table> <p>コロナ禍の制限がなくなったことでグループ活動が活発的になり、主体的に活動することが可能になった。話し合いや学び合いの場を意図的に設定した授業の充実が図れた。</p>	児童	92.9%	教職員	96.9%	保護者	87.9%
児童	92.9%									
教職員	96.9%									
保護者	87.9%									

			<p>【次年度の方針】</p> <p>児童一人一人が自分の考えをもつとともに、対話を通して考えを広げ、深められるような支援をしていく。単元全体を通して、問題解決型の授業にじっくり取り組めるように指導していく。</p>								
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上</p>	<p>①認め励ます指導を推進し、友達に優しく接することができるようにする。</p> <p>②道徳の時間を核として、教材文の人物の行動や心情から思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を意図的に設定する。</p> <p>③異学年交流や縦割り班活動、地域の方とのふれあい活動を実施し、思いやりの心を育む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>92.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.5% ↓</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>保護者の肯定的回答の割合が少し低下した。児童の言動に関心が高いことが伺える。保護者が思いやりの心を発揮している児童の姿を、想像しにくいことが考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>友達同士で褒め合う、認め合う活動を取り入れる。エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを学級活動等に取り入れ、社会性や思いやりの心を育むとともに、保護者への理解を求めている。</p>	児童	92.9%	教職員	100%	保護者	89.5% ↓	地域住民	100%
児童	92.9%										
教職員	100%										
保護者	89.5% ↓										
地域住民	100%										
	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け、実践後に振り返りを行わせ、努力の過程を認め、具体的なよさを称賛していく。</p> <p>②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い、励まし合えるよう指導する。</p> <p>③学習の見通しをもたせ、粘り強く継続的に取り組ませることで、成果を実感できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>93.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>78.0%</td> </tr> </table> <p>学校生活では、様々な活動場面で児童の目標に向かって頑張る姿が見られた。保護者は、家庭で学習に取り組んでいる姿や学習評価から判断していると思われる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>ホームページや各たよりを活用し、児童が目標に向かって粘り強く取り組んでいる姿を発信していく。また、機会をとらえて、児童の取組を具体的に保護者に伝えていく。</p>	児童	93.3%	教職員	100%	保護者	78.0%		
児童	93.3%										
教職員	100%										
保護者	78.0%										
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上</p>	<p>①避難訓練や交通安全教室などを通して、安全教育を強化するとともに、「明保小のよい子」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。</p> <p>②体育や特別活動において安全に気を付けた生活や健康に関する授業をとおして、日常の健康管理に興味をもたせ、健康的な生活が送れるような実践的態度を育てる。</p> <p>③食や健康について関連のある題材や学級活動で、学校栄養士や養護教諭と一緒に授業を考え、専門的な見方や考え方に触れさせ、理解を深める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>94.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.3%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>給食マナー週間や衛生検査の実施を行った。また学校栄養士や養護教諭による授業参加を行ったことで、児童の意識は向上したと思われる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>ハンカチ使用の励行や廊下の安全な歩行などについて、重点的に指導する。運動量の確保につとめ、体力の向上を図っていく。</p>	児童	94.0%	教職員	96.9%	保護者	88.3%	地域住民	100%
児童	94.0%										
教職員	96.9%										
保護者	88.3%										
地域住民	100%										
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①自己肯定感や自己有用感を高めるために、居がいのある学級経営に努めるとともに、学級活動の充実を図っていく。</p> <p>②縦割り班活動やクラブ、委員会活動をとおして、友達のよさを認め合うとともに、協力して取組めた心地よさを味わえるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>95.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> </table> <p>居がいのある学級経営の充実に努めたことで、児童の協働性が高まった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>日常の認め、励ます指導と共に、教育相談の機会を活用し、児童のよさを具体的に伝えていく。また、児童自身が教育</p>	児童	95.4%	教職員	96.9%				
児童	95.4%										
教職員	96.9%										

			相談アンケートやキャリアパスポート、学校行事・クラブ・委員会の振り返り等で自分のよさや成長を見つめられるようにしていく。						
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 90%以上	①英語を使っての学習活動とおし、伝え合う楽しさや喜びを十分味わわせ、コミュニケーション力が向上するようにする。 ②自分の思いや考えを伝え合う場を授業の中で意図的に設定するとともに、教材・教具の工夫を行い、外国語活動・外国語科の充実を図る。 ③ALTと連携し、授業の充実を図りながら、様々なコミュニケーションの方法を取り入れていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>84.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>90.6%</td> </tr> </table> <p>外国語科や外国語活動の時間で、英語でコミュニケーションをする活動を取り入れ実践することで、児童は英語に親しみながら会話することを楽しんでいった。</p> <p>【次年度の方針】 簡単な英語表現を繰り返し行い、英語に慣れ親しむ素地をつくる。ALTと連携し、授業の中で自分の思いや考えを伝え合ったり、作成した物を見せ合ったりする等、様々なコミュニケーションの場を意図的に設定していく。</p>	児童	84.2%	教職員	90.6%		
児童	84.2%								
教職員	90.6%								
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①「宇都宮学（3年以上）」において、宇都宮の良さについて学習するだけでなく、宇都宮市に関連する資料やイベント等のお知らせを配付する際には、市の良さや特長を積極的に児童に伝える。 ②宇都宮学の内容を学年だより等で保護者に伝え、宇都宮の良さをともに理解できるように啓発していく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>88.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>87.5% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>65.3%</td> </tr> </table> <p>児童は宇都宮学の授業を通して、宇都宮の良さについて知ることができるようになってきた。学習した内容を保護者にも伝えることが不十分だった。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮学の内容を学年だより等で伝えたり、パンフレットや新聞等の成果物を見せる場を設けたりして、保護者へ啓発する。宇都宮市に関連する資料やイベント等のお知らせを配付する際には、市の良さや特性、学習して学んだこととの関連を積極的に児童に伝える。</p>	児童	88.4%	教職員	87.5% ↓	保護者	65.3%
児童	88.4%								
教職員	87.5% ↓								
保護者	65.3%								
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①1人1台端末や図書資料等を積極的・効果的に活用できるよう、各教科等の学習過程の中で意図的、計画的に指導していく。 ②教職員がICT機器や図書資料を授業の中で、使い分け効果的に使用することで、学習効果を高めていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>83.7%</td> </tr> </table> <p>1人1台端末を、単元の効果的な場面で活用させることができた。保護者には、児童の活用場が具体的にイメージしにくいことが考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 1人1台端末や図書資料等を積極的・効果的に活用できるよう、各教科等の学習過程の中で支援していく。保護者に、授業参観で1人1台端末や図書資料を活用している様子を見せたり、1人1台端末で作成した成果物を見せたりして、理解を求めていく。</p>	児童	90.9%	教職員	96.9%	保護者	83.7%
児童	90.9%								
教職員	96.9%								
保護者	83.7%								
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①生活科や理科において植物の大切さを指導したり、社会科・総合的な学習の時間などにおいて、水や電気を大切にすることを指導したりする。また、「持続可能な社会」について学習内容と関連して扱い、関心を高める。 ②児童会活動（環境・掲示委員会など）の活動とおし、児童の興味関心を高め、実践しようとする意欲を高めていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>78.1% ↓</td> </tr> </table> <p>教職員が関連する学習内容で、意図的・計画的に指導することが不十分だった。</p> <p>【次年度の方針】 日常生活の中で「持続可能な社会」について学年に応じて話題として取り扱い、児童の意欲を実践につなげていく。</p>	児童	90.9%	教職員	78.1% ↓		
児童	90.9%								
教職員	78.1% ↓								

			く。また、年間指導計画での位置付けを明確にし、自校化していく。								
3- (1) インクルーシブ教育システムの実践に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上	①配慮を要する児童や個別の支援が必要な児童等について、打合わせ時や職員会議において共通理解を図り、迅速で組織的な対応をする。 ②支援の方向を決める際は、ケース会議を開き組織的対応をするとともに、必要に応じてSCや専門機関との連携を図り、適切な支援ができるようにする。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> こまめに情報共有を行い、コーディネーターを中心にして迅速かつ組織的な対応ができた。 【次年度の方針】 配慮を要する児童についての研修を深め指導力を高めるとともに、全校体制での情報の共有を迅速に行うよう共通理解を図る。	教職員	100%						
教職員	100%										
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①「いじめゼロ集会」等、いじめ防止に向けての児童の主体的な取組を支援する。また、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、学校の取組を発信していく。 ②いじめが許されない行為であることを教師が繰り返し語るとともに、各種アンケートやQ-Uの結果、教育相談等を生かし、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82.6%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>86.7%</td> </tr> </table> いじめはどこでも起こる可能性があるということを前提に、適切で毅然とした指導を行った。 【次年度の方針】 未然防止のために、児童間の悪ふざけやからかいも見逃さないようにする。また、引き続き組織的に対応し早期対応に努める。	児童	97.7%	教職員	100%	保護者	82.6%	地域住民	86.7%
児童	97.7%										
教職員	100%										
保護者	82.6%										
地域住民	86.7%										
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう学級経営を充実させる。 ②日々の観察をはじめ、教育相談週間によるアンケート調査や相談結果、Q-U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。 ③教職員は、一人一人を大切にしていることを児童や保護者に伝え、理解や支援を依頼する。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>96.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.6%</td> </tr> </table> 個に寄り添った支援を行い、教職員が連携して対応したことで、肯定的回答を得ることができた。 【次年度の方針】 児童が活躍し、安心して生活できるよう学級経営の充実を図る。教職員が家庭の状況を正確に把握する機会、保護者とつながる機会を重視する。さくら連絡網や電話等で学校の様子や予定を伝え、保護者との連携を図っていく。	児童	96.0%	教職員	100%	保護者	90.6%		
児童	96.0%										
教職員	100%										
保護者	90.6%										
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①教師が、相談しやすい雰囲気を日常的に醸成し、児童一人一人の困り感に寄り添い、問題解決の支援に取り組む。 ②学級経営の充実を図るとともに、学級活動とおとして、望ましい集団づくりをし、明るく居がいのある雰囲気を醸成する。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>95.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.7%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> </table> 教育相談の実施や学級経営計画と実施により、児童が明るく過ごすことができた。 【次年度の方針】 学級経営の充実を図ったり、望ましい集団づくりのためにより細やかな支援を行ったりしていく。	児童	95.0%	教職員	100%	保護者	88.7%	地域住民	100%
児童	95.0%										
教職員	100%										
保護者	88.7%										
地域住民	100%										
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化											
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善を行うことで、分かる授業を実現する。 ②ねらいの明確化・板書・発問の工夫、ノート指導の充実を図る。 ③1人1台端末を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.5%</td> </tr> </table> 「宇都宮モデル」を基盤に、研究授業や総合訪問を通して、授業力の向上に努めた。 【次年度の方針】 「宇都宮モデル」を基盤に授業力の向上	児童	94.8%	教職員	96.9%	保護者	86.5%		
児童	94.8%										
教職員	96.9%										
保護者	86.5%										

			に努める。さらに、授業における1人1台端末の在り方について研究し、発達段階に応じたICT機器の活用を図る。また、低学年におけるノート指導を行い、中学年からノート、プリント、1人1台端末を上手く活用していく。								
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①学校の全教職員が同じ目標のもとに、情報を共有しながら、学校目標の実現に向けて、教育活動の充実を図る。 ②個々の役割を担うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、互いに協力して取組めるよう、同僚性を発揮する。 ③関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>93.8%</td> <td>↑</td> </tr> </table> 全職員が同じ目標のもとに情報を共有し、互いに協力することで同僚性を発揮することができた。 【次年度の方針】 学校経営方針の理解のもと、全教職員が情報を共有し、互いに協力するチームとして組織力を高めていく。	教職員	93.8%	↑					
教職員	93.8%	↑									
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上	①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。 ②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直しなどを行う。 ③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>81.3%</td> </tr> </table> 各自が勤務時間を意識し、効率的かつ計画的に業務遂行に努めた。また、相互に業務支援を行うことができた。 【次年度の方針】 児童との時間を確保するために、業務の精選、見直しを行うとともにICTを活用し、業務効率化の実効性を高めていく。	教職員	81.3%						
教職員	81.3%										
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	① <u>地域学校園の小中合同の「あいさつ運動」</u> を年2回実施し充実を図る。 ② <u>図書館や食育等、各種学校園だよりの発行等</u> を行い、 <u>小中学校間の連携の様子を保護者、地域に伝える。</u> ③ <u>小中一貫各部会での活動内容を共有し、実践につなげる。</u>	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>92.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>69.3%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> 保護者へ小中一貫についての理解を深めることが不十分だった。 【次年度の方針】 小中一貫教育の視点を年間指導計画に位置付け自校化するとともに、時機を捉えて、様々な手立てで保護者に周知を図るようにする。	児童	92.0%	教職員	93.8%	保護者	69.3%	地域住民	92.9%
児童	92.0%										
教職員	93.8%										
保護者	69.3%										
地域住民	92.9%										
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①地域や大学、企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的にホームページや学年だより等で情報発信していく。 ②授業をねらいに合わせて、活動を充実させられるよう相手先と計画・連絡・調整していく。 ③生活科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、地域の施設や地域人材を活用した学習を積極的に行うとともに、地域学校協働活動推進員をとおして、学校支援ボランティアの活用を図っていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.0%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>93.3%</td> </tr> </table> 各種ボランティア等、様々な人材を活用することで充実した教育活動を行うことができた。 【次年度の方針】 活動内容や目的を明確にし、相互にとって有効な場面で、家庭・地域・企業等と連携・協力していく体制を整える。また、学校支援ボランティアの活動を継続していく。	児童	93.8%	教職員	96.9%	保護者	89.0%	地域住民	93.3%
児童	93.8%										
教職員	96.9%										
保護者	89.0%										
地域住民	93.3%										
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進											
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①毎月の安全点検を十分に行い、利用する人の安全な確保のため、補修、修繕を速やかに行う。 ②多くの方が来校する学校行事等では、危険予知を複数で行い、安全な環境づくりに努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> 点検者が毎月の安全点検を十分に行い、担当者が用具や施設の補修、修繕を速やかに行うことができた。 【次年度の方針】	教職員	93.8%	保護者	90.3%	地域住民	92.9%		
教職員	93.8%										
保護者	90.3%										
地域住民	92.9%										

			安全点検や校内巡視等、日常において複数の目で危険予知を行うことで、早めの対応を安全な環境づくりに努める。								
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①情報メディア担当を中心に、教職員がデジタルの活用方法を共有し、効果的な場面で積極的に活用できるようにしていく。 ②ICT支援員と連携し、校務改善の方法を具体化していく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>96.9%</td> </tr> </table> 学年間で積極的にコミュニケーションを取り合い、デジタル化の情報を共有しあうことができました。 【次年度の方針】 全校体制で情報メディア年間指導計画の別様を作成し、授業場面での準備を整えるとともに、校務のデジタル化を推進する。	教職員	96.9%						
教職員	96.9%										
	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①日常的なあいさつや会釈など、あいさつの方法について随時指導しながら、よくできている児童を称賛し、意識化を図る。 ②地域学校園の「小中一貫あいさつ運動」や地域協議会と連携した「あいさつ運動週間」、安全見守りボランティアの日々の声掛け等を生かしながら、自然にあいさつができるようにしていく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>92.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>90.6% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>80.0% ↓</td> </tr> </table> 地域の方とのふれあう場面でのあいさつが低調であることが原因と考えられる。 【次年度の方針】 あいさつ強調日を年度当初に設定し、あいさつの練習やあいさつの意義の指導等を徹底する。児童があいさつの心地よさを感じられるような活動を取り入れる。保護者や地域の方々にも声掛けを依頼し、教職員も含め大人から根気強くあいさつを推進していく。	児童	92.5%	教職員	90.6% ↓	保護者	81.3%	地域住民	80.0% ↓
児童	92.5%										
教職員	90.6% ↓										
保護者	81.3%										
地域住民	80.0% ↓										
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。 ②「毎日めざそう5つ☆」（あいさつ・返事、名札、くつ揃え、心が温かくなる言葉かけ、話の聞き方）定着させるために、強化週間を設けたり、児童会や高学年が主体となって強化する活動を取り入れたりして、児童が意識的に取り組めるように工夫をする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>91.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>87.5% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> 「毎日めざそう5つ☆」の取組を推進してきた。時間やきまりを守る、心が温かくなる言葉かけ等に課題が見られる。 【次年度の方針】 「明保小のよい子」をベースに、「5つ☆」の指導を継続していく。生活当番の見回りなどを活用し、見逃しがないように指導を徹底する。年度始めに「5つ☆」の手本となる指導を行い、「5つ☆」の自己評価を継続する。「よい子のきまり」の要点を大きく示したポスターを作成し、児童の意識を高める。	児童	91.9%	教職員	87.5% ↓	保護者	90.0%	地域住民	92.9%
児童	91.9%										
教職員	87.5% ↓										
保護者	90.0%										
地域住民	92.9%										
	B3 児童は、自己肯定感・自己有用感を育てている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①自己肯定感や自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図り一人一人が自分のよさを捉えられるようにする。 ②学級や学校のために、進んでよい行いをしている児童を称賛したり、前向きな気持ちで役に立とうとしている児童を支援したりして、成長を実感できるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>83.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> 学級や学校のために、進んで善行を行うことへの意欲が、個人差が大きい。 【次年度の方針】 自己肯定感や自己有用感を育む場づくりやコミュニケーションスキル獲得のための研修を充実させる。	児童	83.6%	教職員	100%				
児童	83.6%										
教職員	100%										
	B4 児童は、授業等でめあてに向かって学び、振り返りを行っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①授業で、めあてを明確に提示し、本時の活動の見通しをもたせるとともに、振り返りをさせることで、学びの実感を得られるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>70.0%</td> </tr> </table> めあてを明確に提示し、ノートや1人	児童	89.6%	教職員	100%	保護者	70.0%		
児童	89.6%										
教職員	100%										
保護者	70.0%										

	②めあてを意識した、話し合い活動を重視し、主体的に課題解決できるようにする。	1台端末で学年に応じた振り返りができたが、保護者が児童の振り返りを見る機会が少ない。 【次年度の方針】 学年に応じた、振り返りの視点を提示し、どんな観点で振り返ればよいか明確にする。掲示物や個人懇談、学年だより等で保護者の目に触れる機会を設ける。		
B5 教職員は、校内研修やOJTを通して学び合っている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①校内研修を行い、研修の目的を明確にし、授業力の向上を目指すことにより学び合う集団として向上できるようにする。 ②若手教員育成システムを活用したり、各校務分掌でチームを組んだりして、日常的にアドバイスができるようにする。OJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。	B 【達成状況】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>教職員</td> <td>93.8%</td> </tr> </table> 授業実践を通して、若手教員はもとより、教員がそれぞれの立場で学び合う集団として向上することができた。 【次年度の方針】 各教職員がそれぞれの立場で求められる指導力の向上を図ることで、チーム明保として同僚性の強化を図る。	教職員	93.8%
教職員	93.8%			

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

○児童は、友達と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。グループ活動が活発に行えたことで、成果につながった。引き続き、話し合いや学び合いの場を設定するとともに、単元を見通して、問題解決型の授業に主体的に取り組めるようにしていきたい。

・「宇都宮の良さ」の理解向上については、宇都宮学の内容を学年だより等で伝えたり、パンフレットや新聞等の成果物を保護者に見せる場を設けたりし、積極的に保護者への啓発活動を行いたい。

・認め励ます指導をし、機会を積極的に設けることで、児童は自己有用感を高められた。

・個に寄り添った対応ができ、保護者と教職員が連携して対応にあたることができた。

・総合訪問や授業研究会をとおして、教員の資質能力の向上が図れた。

○あいさつ強化週間の実施や小中合同あいさつ運動の実施によりあいさつ習慣の定着が図れた。

7 学校関係者評価

・登下校時の児童の安全意識の向上を図るために、地域としても一緒に考えていきたい。歩き方、手を挙げて横断、上着から出して歩くなど指導の充実を図ってほしい。

・あいさつには個人差があるのは仕方がない。登校班班長があいさつすると班員もする。子供からあいさつを返されると、元気が出る。

・いじめについては、繰り返し粘り強く指導してほしい。

・昨今子どもの様子が変わってきている。子どもたちの話から教職員の取組が分かり、頑張りやが伝わっている。

・「持続可能な社会に関心をもつ」という問いで、児童と教師の理解の違いがあるのではないかと。

・保護者の数値が全体的に低いと、質問の内容についての学校での様子が分からず、回答しているためではないかと。

・個に応じた支援は大切である。保護者が相談しやすい環境を整えてほしい。

・うつのみやの良さを親子で共有できるとよい。

・宮の原地域学校園の取組は伝わっているが、陽西や城山の地域学校園の様子についても情報提供してほしい。

・きまりやマナーを守ることは、人として大切なので、課題を保護者、地域と共有して取り組むとよい。

・しつけは家庭でするものとして、学校で行うことと住み分けられるとよい。

・児童がめあてに向かって学び、振り返りをしている様子が、保護者に伝わっていないのではないかと。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

○主体的・対話的深い学びの実現に向けて、1人1台端末を活用しながら、基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図っていく。

○人権に配慮しながら認め励ます教育を推進し、規範意識の高い児童の育成に取り組む。

・自然にあいさつができる児童を育てるとともに、危機回避能力の向上を図る。

○地域学校園の取組を、積極的に発信していく。

・保護者、地域と課題を共有し、連携して取り組めるようにする。

・児童のよさをより具体的に保護者に伝えるようにする。